

♪じょうずになあれ♪

No.184

2024年度8月9月号

ポコアポコ

ウォーミングアップから始めよう

Rちゃんがレッスン室をレンタルして、練習している時のこと。

レッスン室裏、自宅の庭の片づけをしていた夫が、聞こえてくるピアノの音に「ちゃんと基礎の練習からしてるんだなあ。いきなり曲からは弾かないんだなあ」と、感心したように言いました。

夫は、ピアノのことは何もわかりませんが、それでも、トレーニング的な基本の練習をしているということは、わかったようです。

私はふと気になりました。「みんなは、ちゃんとウォーミングアップから始めてるかなあ」

ということで、繰り返しお伝えしているので「またかあ」と思うかもしれませんが、ウォーミングアップのお話。

運動前にストレッチや準備体操が必要なように、ピアノにも練習の最初に行う指のトレーニングがあります。

導入期～第1課程は、「のぼりまおりましよう～♪」と歌いながら弾く「5指のポジション」。

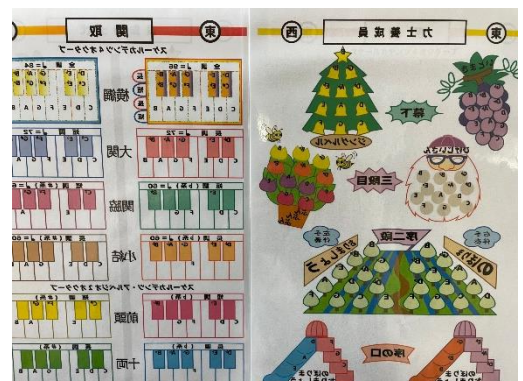
第2課程以降は、「スケールカデンツ」がそれにあたります。

つまり「スケール番付のシート」の内容を、練習の始めにするのです。

指のトレーニングではありますが、ただ弾くのではなく、音の方向（上がる下がる）に気をつけて、音が上がった時には「クレッシェンド（だんだん大きく）」「音が下がった時にはデクレッシェンド（だんだん小さく）」と、強弱に気をつけて弾いたら表現の練習になります。

「スケール番付シート」に全部シールを貼り終えて横綱まで到達しても、それで終わりではありません。練習の最初には準備運動のスケール。

一音一音、音の粒をそろえる、より明確に、より速く、左右の音量のバランスを変えて弾くなど、弾き方を変えていくだけでもやれることがあります。



「のぼりまおもしろいしょう」のあと、教本との兼ね合いで、そのままスケールに進めない人は、「ぶんぶんぶん」や「ひげじいさん」などの曲を、12個の調全部をリレーして、ウォーミングアップとして弾けば良いです。

ちょっと余談ですが、中級上級になって弾くようになる「ソナチネ」や「ソナタ」は、曲の7割がスケールで出来ているとも言われます。だからスケールをきちんと弾けるようにしておけば、いざそういう難しい曲を弾こうと思った時も、楽に弾けるようになるのです。

ハノンやスケールはつまらない、と言わずに、是非練習の始めに弾いてくださいね。

*スケールとは、音階（音の階段、ドレミファソラシド）のことです

☆進級おめでとう!☆

第2課程

竹内湊くん
加藤葵衣ちゃん

西多賀小2年
鹿野小3年



☆ピティナステップおめでとう☆

応用3
応用6
フリー15分

堀内彩乃さん
河野楽々さん
佐々木璃都さん

長町中3年
みどり台中1年
長町中1年

4/29 於戦災復興記念ホール
6/9 於名取文化中ホール
7/28 於イズミティ小ホール



ピティナコンペティション小山地区予選大会

★入賞おめでとう★

7/15 於生涯学習センターホール

D級

佐々木璃都さん

長町中1年

